

## 第52回全日本大学駅伝対校選手権大会 新型コロナウイルス感染症予防対策マニュアル

(初稿：2020/8/28)

(2稿：2020/10/12)

(3稿：2020/10/19)

### ◇第52回全日本大学駅伝対校選手権大会開催の前提条件

1. 緊急事態宣言が解除されている。
  - ①政府、愛知県、三重県、名古屋市の移動制限の解除
  - ②政府、愛知県、三重県、名古屋市の外出自粛の解除
  - ③愛知県、三重県、名古屋市の店舗営業自粛の解除
2. 愛知県、三重県、名古屋市およびゴール地点の伊勢市から大会開催が認められ、コースを通過する自治体に対して開催が周知されている。
3. 愛知県、三重県、名古屋市で新型コロナウイルス感染症に関する診療体制が整っている。感染者および感染疑い者が発生した場合に対応可能な医療機関が事前に定められている。

### ◇新型コロナウイルス感染症予防の基本方針

1. 体調管理チェックシートの事前提出、事後記録
2. マスクの持参、着用
3. 検温の実施
4. 手指の消毒
5. 3密（密閉、密集、密接）の回避

### ◇新型コロナウイルス感染症対策室の設置

1. 本大会における新型コロナウイルス感染症対策室を設置する。
2. 同じく新型コロナウイルス感染症対策責任者を置く。

新型コロナウイルス感染症対策室		朝日新聞名古屋本社内 全日本大学駅伝事務局 052-231-8131
感染症対策責任者	永井 純	公益社団法人「日本学生陸上競技連合」 03-5304-5542

### ◇感染症発生時の対応

1. 感染症対策室は、参加者から発症の報告を受けた場合の対応方針を開催自治体の保健衛生部局と事前に検討する。
2. 大会終了後、2週間の健康観察期間に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、競技者本人かチームの代表者が、感染対策室に対して速やかに連絡する。
3. 感染者が出た場合、開催自治体の保健衛生部局に連絡し、指示に従って協力する。
4. 感染症対策室は、自治体や保健所等と連携しながら、感染者の公表、その内容を決定する。情報の公表にあたっては、感染者に対して不当な差別及び偏見が生じないように個人情報保護に留意する。

## ◇会場における感染予防策

1. マスクの着用の徹底
  - ①大会役員、補助員、警備員などすべてのスタッフに常時マスク着用を義務付ける。
  - ②選手には、競技中（ウォーミングアップ、クールダウンを含む）以外のマスク着用を義務付ける。
  - ③チーム関係者、報道関係者も会場および周辺でのマスク着用を義務付ける。
  - ④競技者と接触する可能性があるスタッフはマウスガード、手袋などを着用する。
2. ソーシャルディスタンスの確保
  - ①会場では可能な限り他人との距離を確保し、必要以上の会話を避ける。
  - ②たすき、健康に関する誓約書の受け渡しなど、対面での対応が必要な場所にはパーティションを設置する。
3. 手指の消毒場所の確保
  - ①選手の待機場所、大会役員や運営スタッフが滞留する場所には可能な限りアルコール等の手指消毒剤を用意する。
  - ②布タオルは使用せず、使い捨てペーパータオルを用意する。

(※アルコール消毒液、ペーパータオル等の消耗品はスタート、中継所、ゴールなどに主催者が準備。マスクは参加者各自が用意する。ただし、主催者は緊急時に備えて予備のマスクを準備する)
4. スタート、中継所の仮設テント
  - ①競技者や付き添い部員の距離が近くなりすぎないように呼びかける。使用した競技者が長く滞留しないよう促す。
  - ②使用者が触れる場所については、こまめに消毒する。
5. 仮設トイレ
  - ①ドアノブ、レバーなどは、こまめに消毒する。
6. ごみの処理
  - ①飲み残り飲料や鼻水、唾液などが付着したごみは自己責任で処理（原則として持ち帰り）するようにする。
7. その他
  - ①喫煙所は設置しない。
  - ②受付や監督・マネージャー会議等で使用する物品（テーブル、イスなど）、運行車両の室内はこまめに消毒する。

## ◇競技者およびチーム関係者の対応事項

1. 競技者は大会の2週間前からの体調管理および検温を実施し、日本学生陸上競技連合の体調管理チェックシートに記入して各大学の代表者もしくは個人が管理する。
2. 各大学の代表者は所属大学の競技者および関係者の健康状態を確認し、提出用の体調管理チェックシート1枚を主催者に提出する。
3. 体調管理チェックシートを提出しない出場内定校は出場を認めない。
4. 競技者、チーム関係者は会場到着時に検温を実施する。異常があった場合には大会本部の医師の指示に従う。

5. 体調が不確かな競技者がいたときは、その場で検温を実施し、大会本部の医師の指示に従う。
6. 大会終了後2週間の体調管理・検温を実施する。
7. 競技中を除きマスクの着用を義務とし、マスクをしていない人に対し注意を促す。手指の消毒の徹底を呼び掛ける。
8. 会場では、唾（つば）や痰（たん）を吐くことは慎む。
9. 接触確認アプリの導入が望ましい。

#### ◇大会関係者の対応事項

1. 感染予防対策を目的に個人情報を取得する必要があるため、健康に関する情報は要配慮個人情報にあたるため、選手、チーム関係者、参加者から必ず同意を取る。
2. 大会会場への移動の際は公共交通手段の使用はなるべく避ける。自家用車で移動する大会要員は、道路事情を踏まえ、通勤災害の防止に留意する。
3. 大会前2週間の体調管理チェックシートを記入し、所属団体の責任者が管理する。責任者は提出用の体調管理チェックシート1枚を主催者に提出する。異常があった場合は、感染拡大防止のために業務従事の辞退を求める。
4. 大会終了後2週間の体調管理・検温を実施する。
5. 輸送バスの運行は、3密を避けるなど感染症対策に十分配慮する。
6. 接触確認アプリの導入が望ましい。

#### ◇観戦者への対応

1. 出場大学の応援団、学生、父母会、OB会等による応援は自粛を要請し、大学やチームを通じて周知徹底する。
2. スタートや沿道、ゴールでの観戦、応援は、折り込みちらし、大型ビジョントラックの運行、テレビ番組、自治体広報などで自粛を要請し、テレビ中継による観戦を呼びかける。
3. スタート、ゴールの付近では、コーンやバーで立ち入り禁止区域を設け、3密状態の発生を防ぐ。
4. 観戦や応援の人たちによる3密状態が発生したり、発生しそうになったりした場合は、プラカード等を持った警備員、スタッフが解消を促す。

#### ◇レースの管理

1. スタート前
  - ①待機テントでは、他の選手、スタッフと密になることを避けるように呼びかける。
2. レース中
  - ①レース中の給水は原則として小サイズのペットボトルを使用する。飲料を取り扱う者は事前の手洗いや消毒など衛生管理を徹底する。
  - ②ペットボトルなどの回収を考慮して各給水所にトングを用意する。
3. フィニッシュ後
  - ①フィニッシュ後は速やかに選手を指定区域へ移動するよう誘導する。

②競技中、フィニッシュ後に倒れ込んだ競技者の対応は、防護体制を整えたスタッフで対応する。

③レース終了後は、手指のアルコール消毒、手洗いを促す。

4. メンバー、記録の確認

①メンバー、記録を掲示することによる密集を避けるため、ウェブでの確認を促す。

◇当日の医療体制

1. 医師らが医療班用車両で随行する。異変があった場合には医師の指示に従う。
2. 当日の感染者発生に備え、医療用個人防護具（マウスシールド、手袋、マスクなど）を準備する。

◇メディア・取材への対応

1. 主催者の対応事項

① 主催者は報道各社向けの大会取材要項を作成し、メディアの履行義務事項（開催 2 週間前の体調管理・検温の義務と体調管理チェック表の提出、および終了後 2 週間の体調管理・検温を行う旨を必ず記載）などを記載し、取材の事前申請を受け付ける。

2. 取材人数について

① 人数を設定し、事前に報道関係各社と取り決めをする。

3. 取材方法について

② 報道受付では、事前に記載してきた取材申請者から個人別の体調管理チェックシートを受け取り、本人確認後、IDカード、ビブスを交付する。

③ インタビューはオンラインまたはパーティション越しとし、選手との接触を防ぐ。

4. 取材・撮影エリア

② 設定した撮影エリア内でのソーシャルディスタンスは、カメラマン同士で調整するよう促す。

5. 報道取材者への依頼

③ 取材時はマスクを着用する。

④ 大会開催 2 週間前の体調管理・検温と体調管理チェックシートの提出、大会終了後 2 週間の体調管理・検温を実施する。

③会場内では手指の消毒やせきエチケットなどを心がける。

④取材人数・取材方法・取材エリアを遵守する。

参考①：「陸上競技活動再開のガイダンス」（公益財団法人 日本陸上競技連盟）

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/13857/>

参考②：「ロードレース再開についてのガイダンス」（同）

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/13887/>